

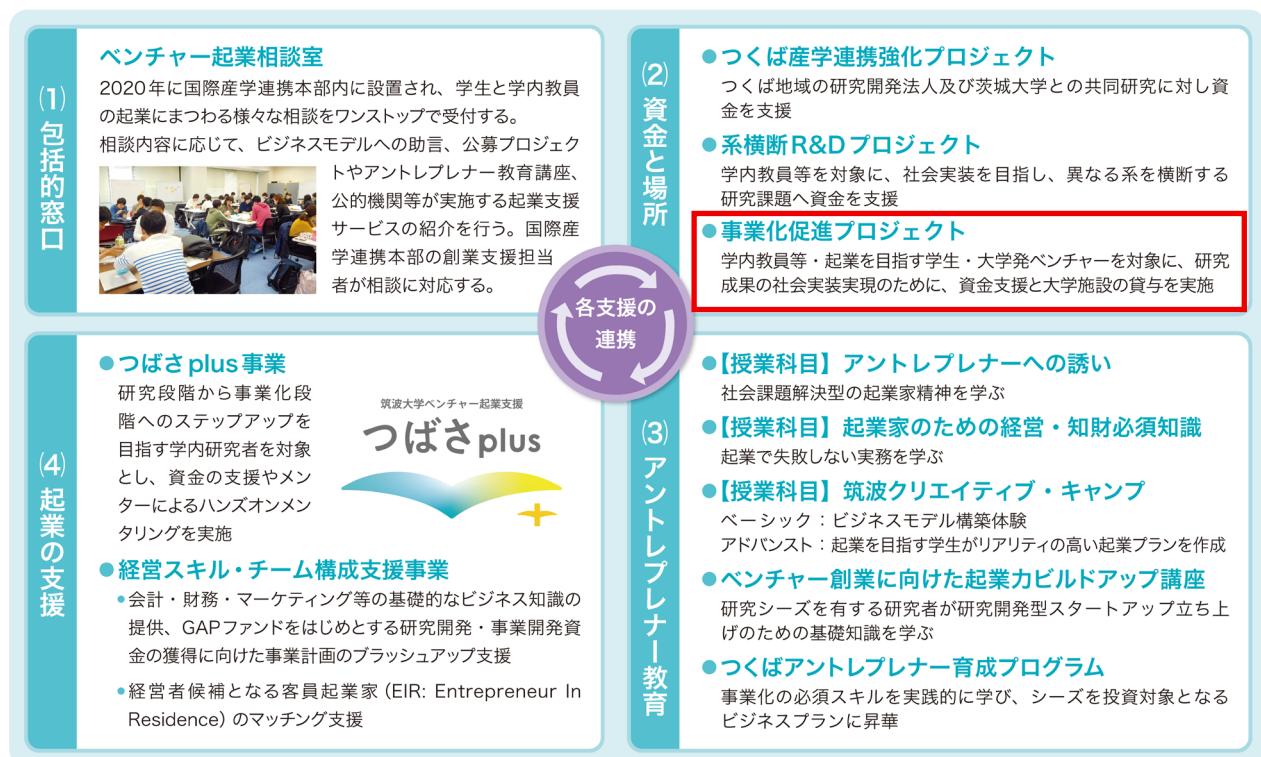
第8回筑波大学発ベンチャーシンポジウムの開催について

筑波大学では、（1）包括的窓口、（2）資金と場所、（3）アントレプレナーシップ教育、（4）起業の支援の4つのフェーズからベンチャーの創出を支援しており、2024年経済産業省 大学発ベンチャー実施状況調査において全国で5番目の設立数となっています。

これらの支援を通じて創出されたベンチャー及び筑波大学の研究成果をもとに起業を目指す研究シーズの事業・研究内容等をVCや事業会社等に向けて発信する第8回筑波大学発ベンチャーシンポジウムを開催しますので、ご案内いたします。

記

1. 筑波大学のベンチャー創出支援について



2. 第8回筑波大学発ベンチャーシンポジウムについて

- 日時 2026年3月6日（金）13:00～18:30（予定）
- 会場 Tokyo Innovation Base（東京都千代田区）
- プログラム

13:00-13:05 開会挨拶

13:05-14:45 つばさ plus 採択プロジェクトで社会実装を目指す研究紹介

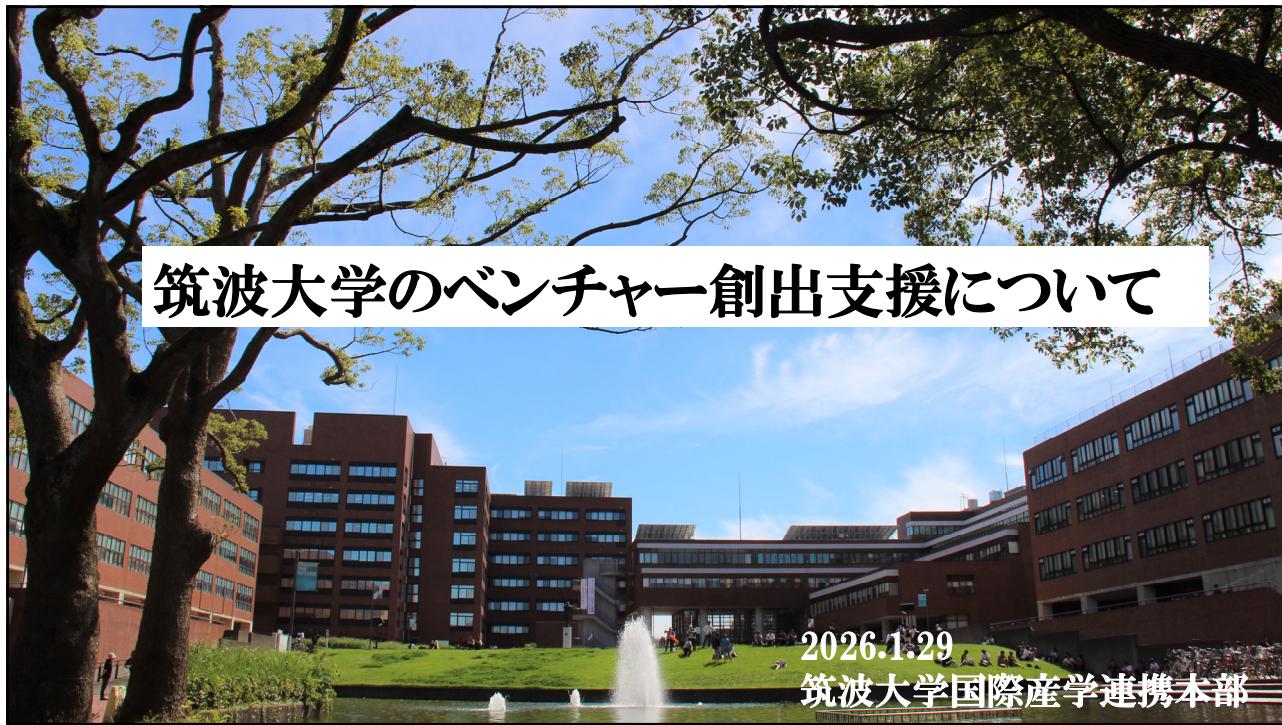
① 国際統合睡眠医科学研究機構 特任助教 戸田 浩史

- ② 生命環境系 教授 三浦 謙治
 - ③ 農学学位プログラム 博士後期課程 1 年 林 利有樹
 - ④ システム情報系 准教授 川崎 真弘
 - ⑤ 数理物質系 助教 櫛田 創
 - ⑥ 計算科学研究センター 教授 矢島 秀伸
- 14:45-15:00 休憩
- 15:00-16:00 基調講演 フラー株式会社 取締役会長 渋谷 修太
- 16:00-16:15 休憩
- 16:15-17:25 筑波大学発ベンチャーの事業紹介
- ① 株式会社 Playbox
 - ② Xsym 株式会社
 - ③ 株式会社 Quick
 - ④ DeepEyeVision 株式会社
 - ⑤ 株式会社ヴィジライズ
 - ⑥ SPHinx 株式会社
 - ⑦ 株式会社麹ラボ
 - ⑧ 地球科学可視化研究所株式会社
- 17:25-17:30 閉会挨拶
- 17:30-18:30 ポスターセッション・情報交換会

お問い合わせ先

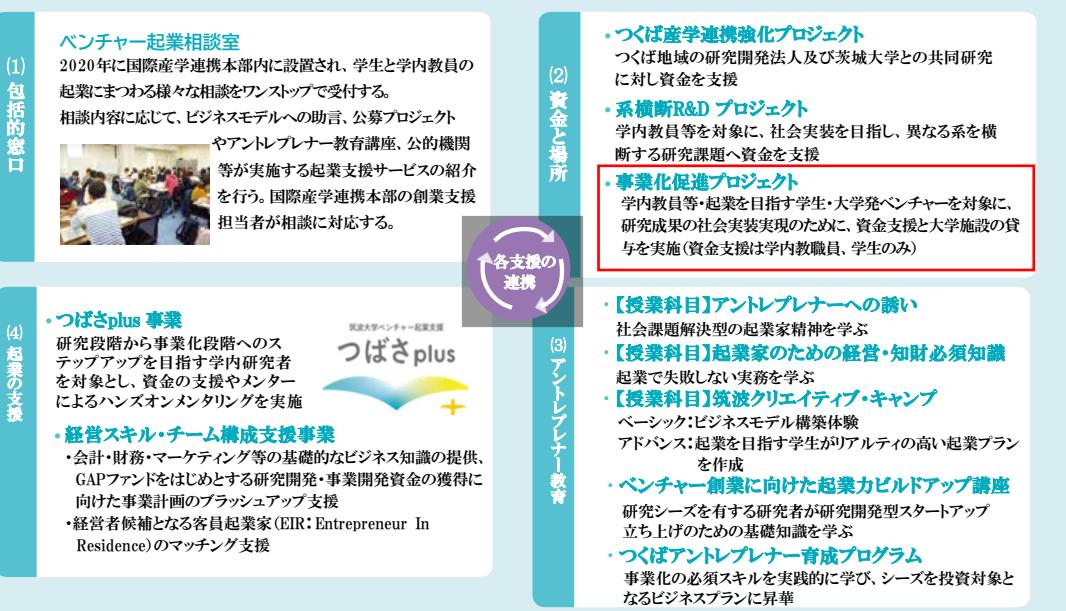
筑波大学産学連携部産学連携企画課

E-mail : koho-sanren@un.tsukuba.ac.jp



1

筑波大学におけるベンチャー創出の支援は、(1)包括的窓口、(2)資金と場所、(3)アントレプレナー教育、(4)起業の支援の4つのフェーズから構成されます。



2

つばさplus事業

研究段階から事業化段階へのステップアップを目指す学内研究者を対象として、資金の支援やメンターによるハンズオンメンタリングを実施しています。



ハンズオン・メンタリング

各チームにメンター2人と、知財メンター1人を配置。手厚いハンズオン・メンタリングによりビジネスプランを作成。そのプランを支える特許等の知財計画を作成。

資金支援

300 ~ 800 万円の資金支援 → PoC、特許調査・出願等に利用。

イベント

ワークショップやビジネス講座等でのスキルアップ。

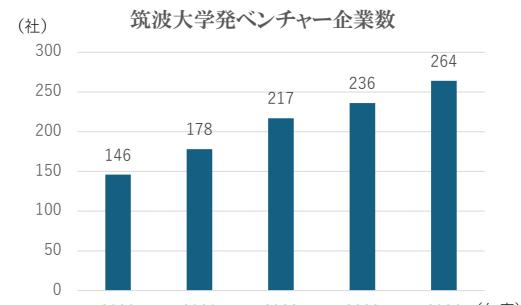
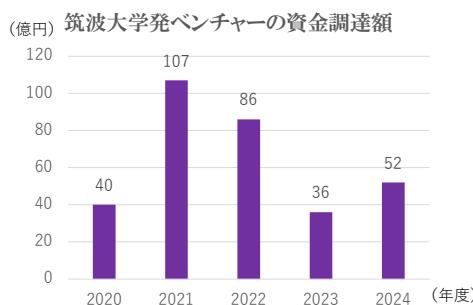
Demo Day

Demo Day でのピッチを通して、事業化促進機関(VC、金融機関等)とマッチング。



3

筑波大学は全国の大学の中でもトップクラスのベンチャー設立実績があります。



(出典：スピーダスタートアップ情報リサーチ「2024年Japan Startup Finance ~国内スタートアップ資金調達動向~」)

大学発ベンチャー企業数(順位)

	2020	2021	2022	2023	2024
東京大学	323(1)	329(1)	370(1)	420(1)	468(1)
京都大学	222(2)	242(2)	264(2)	273(3)	422(2)
慶應義塾大学	90(10)	175(5)	236(3)	291(2)	377(3)
大阪大学	168(3)	180(3)	191(5)	252(4)	298(4)
筑波大学	146(4)	178(4)	217(4)	236(5)	264(5)
東京理科大学	111(7)	126(7)	151(7)	191(7)	226(6)

(経済産業省 大学発ベンチャー実態等調査報告書より)

4

第8回筑波大学発ベンチャーシンポジウム

支援を通じて創出されたベンチャー及び筑波大学の研究成果をもとに起業を目指す研究シーズの事業・研究内容等をVCや事業会社等に向けて発信する第8回筑波大学発ベンチャーシンポジウムを開催します。

日時 2026年3月6日(金) 13:00～18:30(予定)

会場 Tokyo Innovation Base(東京都千代田区)

(登壇する筑波大学発ベンチャー)

- ・株式会社Playbox
- ・Xsym株式会社
- ・株式会社Quick
- ・DeepEyeVision株式会社
- ・株式会社ヴィジライズ
- ・SPHinx株式会社
- ・株式会社麹ラボ
- ・地球科学可視化研究所株式会社

(登壇する研究者及びテーマ)

- ・国際統合睡眠医科学研究機構 特任助教 戸田 浩史
「新規抗菌ペプチドの発展とその薬剤耐性菌への応用開発」
- ・生命環境系 教授 三浦 謙治
「植物による高価値タンパク質の低成本生産プラットフォームの事業化」
- ・農学学位プログラム 博士後期課程1年 林 利有樹
「海藻残渣から得る藻類纖維と藻類纖維由来の透明化エコマテリアル「Mowtex」の事業化」
- ・システム情報系 准教授 川崎 真弘
「食品摂取時の飽きやすさ予測モデルを用いた商品開発支援」
- ・数理物質系 助教 柳田 創
「生分解チクソトロピー低分子溶媒に根ざした塗装・接着剤応用」
- ・計算科学研究センター 教授 矢島 秀伸
「革新的な光輸送シミュレーションによる次世代脳出血モニタリング」

第8回 筑波大学発ベンチャーシンポジウム

筑波大学ベンチャー起業支援事業「つばさplus」Demo Day 2025

本シンポジウムは筑波大学の研究成果をもとに
起業を目指す研究シーズ(つばさplus 事業採択プロジェクト)6件と
本学発ベンチャー8社による革新的な事業紹介とポスターセッション
そして昨年上場を果たしたフラー株式会社の
代表取締役会長渋谷修太氏をお迎えし
「つくば発ベンチャーが上場するまでの道のり」というテーマにてご講演いただきます。

参加費無料

事前申込制

PROGRAM

12:30 - 13:00 入場受付
13:00 - 13:05 開会挨拶
13:05 - 14:45 つばさplus Demo Day 2025
15:00 - 16:00 基調講演
16:15 - 17:25 筑波大学発ベンチャーピッチ
17:25 - 17:30 閉会挨拶
17:30 - 18:30 ポスターセッション / 情報交換会

基調講演

つくば発ベンチャーが上場するまでの道のり

| フラー株式会社 取締役会長 渋谷 修太 氏

創業から13年8ヶ月と9日目、東証グロース市場への上場を果たした

筑波大学発ベンチャー フラー株式会社

「友達と一緒にいたい」というシンプルな思いで

創った会社の生き立ちから現在に至るまでを語っていただきます。



会場

Tokyo Innovation Base 1階 SQUARE-1

東京都千代田区丸の内 3-8-3

JR山手線・京浜東北線「有楽町駅」京橋口 | 徒歩1分

東京メトロ有楽町線「有楽町駅」D9出口すぐ

東京メトロ有楽町線「銀座一丁目駅」1出口 | 徒歩3分

下記のURLのフォームから

お申込みください



定員 200 名 (先着順)

お申し込み期間

1月30日(金)~3月5日(木)12時まで

<https://t-symposium8th.peatix.com/>

お申込み

IIIS(国際統合睡眠医学研究機構)

戸田 浩史氏 / 特任助教

ペプチド

新規抗菌ペプチドの発展と
その薬剤耐性菌への応用開発

生命環境系

三浦 謙治氏 / 教授

植物からタンパク質を作成

植物による高価値タンパク質の
低コスト生産プラットフォームの事業化

農学学位プログラム

林 利有樹氏 / 博士後期課程

藻類繊維の活用

海藻残渣から得る藻類繊維と
藻類繊維由来の透明化エコマテリアル
「Mowtex」の事業化

システム情報系

川崎 真弘氏 / 准教授

脳波分析

食品摂取時の飽きやすさ
予測モデルを用いた商品開発支援

数理物質系

櫛田 創氏 / 助教

材料

生分解チクソトロピー低分子溶媒に
根ざした塗装・接着剤応用

計算科学研究センター

矢島 秀伸氏 / 教授

シミュレーション

革新的な光輸送シミュレーションに
よる次世代脳出血モニタリング

筑波大学発ベンチャーピッチ

playbox

株式会社 Playbox

スコット・アトム 氏 / CEO
内田 郁真 氏 / COO動きを計算可能にするAI技術を核に、映像から状況を分析し、
スポーツ・産業エンタメ分野で実証から社会実装までを支援する

XSYM

Xsym株式会社

加藤 真平 氏 / CEO

ヒトの多様な暗黙知・感覚・クローズドデータを取り込む
「ヒトの視覚認識アルゴリズム」を核としたコンピュータビジョンを展開
ロボティクス、ドローンなど多様なデバイスに視覚知能を実装

Quick

株式会社 Quick

武田 淳宏 氏 / CEO

AIが症状の緊急度を判定し遠隔診療や最適な搬送手段を
シームレスに連携する未来の救急システムを開発

DeepEyeVision株式会社

高橋 秀徳 氏 / CEO

眼の疾患、特に緑内障の早期発見を可能にする、
眼科向け眼底画像診断支援AIを開発

VigiRise

株式会社ヴィジライズ

阿部 高志 氏 / CEO

ヴィジライズは覚醒度を最適化し
誰もがハイパフォーマンスを発揮できる社会を実現

SPHinx

SPHinx株式会社

佐々木 信 氏 / COO

濃縮技術Smart∞TMを用い、
高感度な感染症簡易診断キットを開発、
グローバルヘルス課題の解決に貢献

株式会社麹ラボ

萩原 大祐 氏 / CEO

日本の伝統的発酵微生物「麹菌」から新たな食品の実現

地球技研

地球科学可視化技術研究所株式会社

芝原 晓彦 氏 / 代表

地球上あらゆる場所の地質・地形・防災情報を
最新のデジタルものづくり技術とプロジェクトマッピング
VRで可視化し、博物館や学校、科学館で最先端の展示を行う

株式会社麹ラボ

食の未来を変える麹菌由来の代替肉



1

食の未来を変える麹菌由来の代替肉とは？

- ① 今までにない**美味しさと健康**
- ② **資源循環**で作るエコフード





持続可能な**食の未来**に向けて
低環境負荷で効率的な食料生産が不可欠

3

植物性代替肉や培養肉など、新たなタンパク質食品の開発進むが…

➤ 伝統的な発酵微生物の“**麹菌**”に着目！

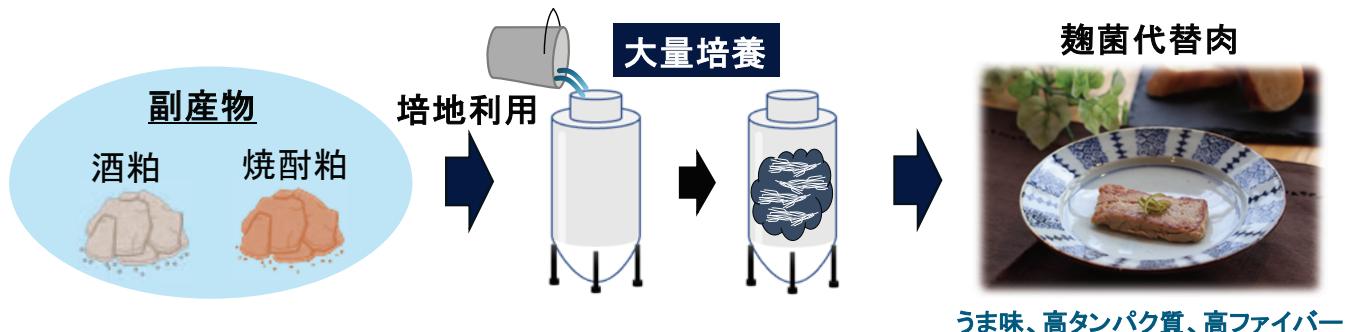


食経験(安心・安全)、良イイメージ、etc.
が訴求力、アドバンテージとなる

4

製造プロセスと弊社の強み

① 食品副産物を利用 ② 麴菌を効率的に培養 ③ 美味しさと機能を創出



大学における生物学的研究や研究力をベースに、実用化に向けた応用展開
(食味向上、効率化、機能性の実現)

5

会社概要

■ 株式会社麹ラボ（2024年12月設立）筑波大学発ベンチャー



代表取締役 萩原大祐
元筑波大学准教授（微生物学）

- 菌類研究20年以上
- 英語論文>100報

➤ 筑波大学内の実験室で協働体制を構築

- ラボ内培養試験



~10L培養槽

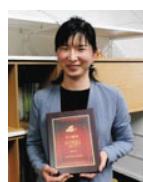


成分分析・官能評価



メニュー開発

共同研究



生命環境系
准教授
粉川美踏
:食品工学



筑波大学
University of Tsukuba

レストラン

副産物提供

食品メーカー

加工法開発

食品メーカー

助成金、補助金：生研支援センター「SBIR支援」、
つくば市スタートアップ製品等試作改良支援補助
金、ちばぎん研究開発助成制度2025

6

昨年の取り組み例

① クラファンサポーター様との試食会開催



エコロクッキングスクールによるメニュー開発
自然食レストラン元氣亭にて試食会開催(2025年6月)
→メニューの食べ比べ、参加者から軒並み高評価

② つくば市内レストランとメニュー開発



magari by NOVAL(つくば市)にてメニュー試作
(試食イベントに向けてメニュー開発を継続中)
→イタリアンなどの創作料理としても利用可能性

今年も多方面で消費者への訴求実証を実施予定

7

麹肉のインパクト

- ◆ 代替肉の導入が加速 + 人の健康 (to 消費者)
- ◆ 資源循環型フードシステムへの移行 (to 社会)
- ◆ 環境負荷の低減 (to 地球)
- ◆ 世界的な“発酵(微生物の力)”の再評価 (to 文化)



連絡先:
hagiwara_d@koji-labo.jp
(代表取締役:萩原)

8



進化し続ける医療インフラをつくる

2026年1月29日

株式会社Quick 〒305-0031 茨城県つくば市吾妻2-5-1

CEO 武田淳宏

筑波大学医学部 6 年
今年度医師免許取得予定

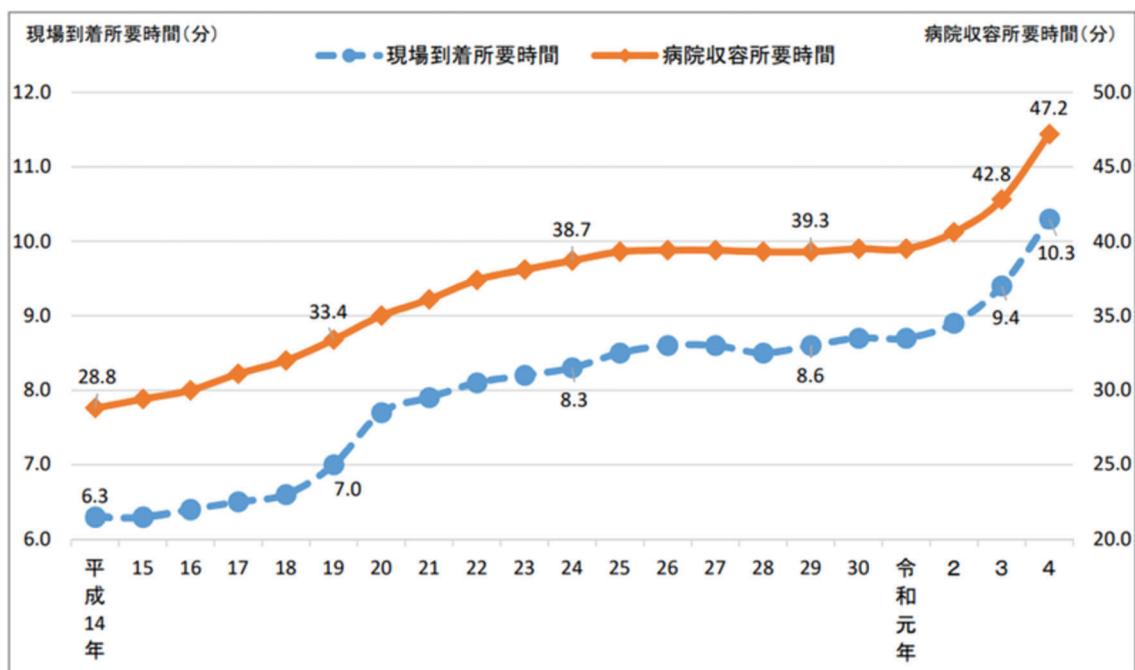
救急医を志し実習で現場に入る中で、逼迫する救急医療の“構造課題”を痛感しました。医療を個人の善意や努力に依存せず、誰もが必要な時に確実に届く「インフラ」として再設計するために起業。現場起点の視点と実装力で、救急医療の変革に挑みます。



ベンチャーを立ち上げたきっかけ

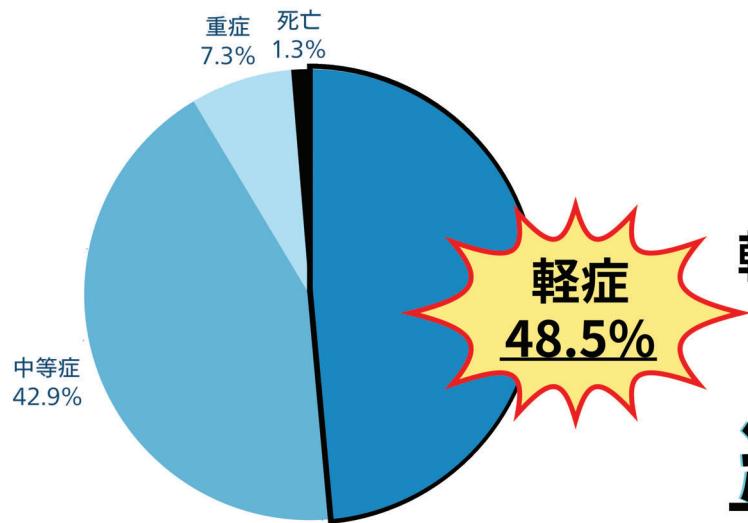
課題 救急インフラの破綻

現場到着時間・病院収容所要時間の推移



通報の内訳

119番通報の約半数が「軽症例」の通報。搬送には約4.5万円/回の費用がかかる。



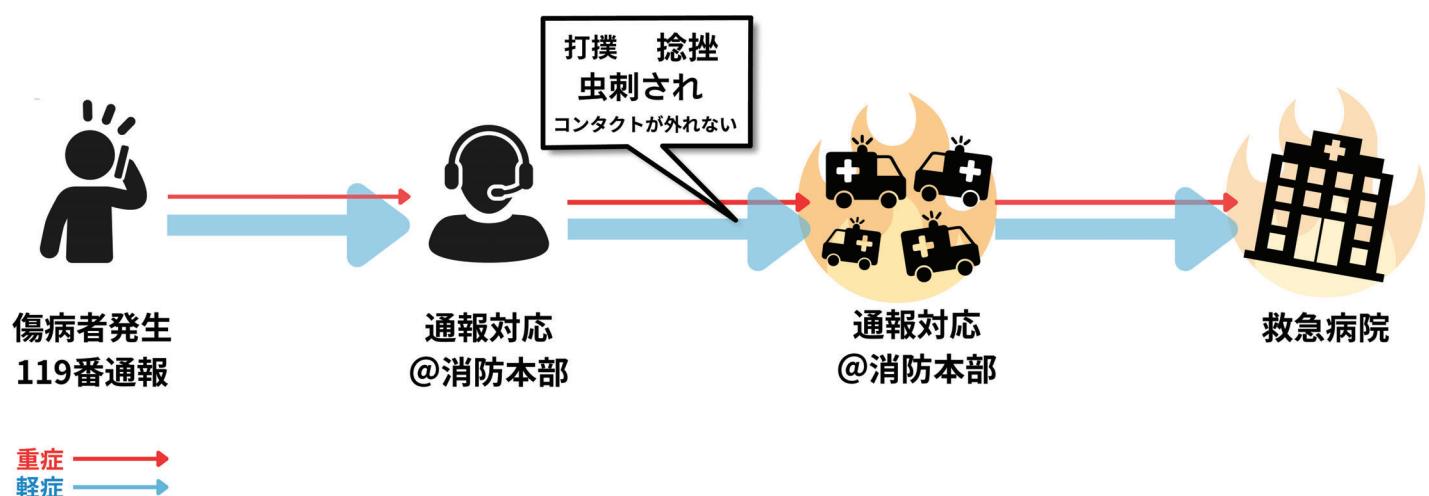
出動費用は約4.5万円/回

×

軽症&不搬送の件数は331万件

II

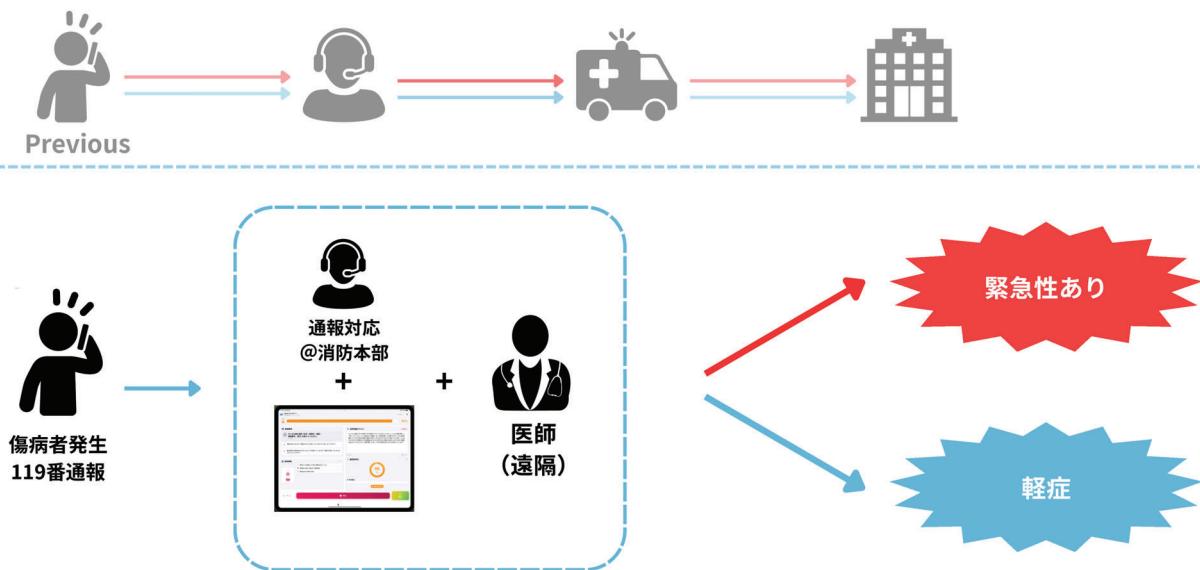
約1400億円/年



事業内容・特筆すべき強み

株式会社Quick：医学生発「救急の逼迫」を解決するAIスタートアップ

通信指令員のAIによる聴取補助+医師による追加聴取で救急車“前”での最適化を実現



AIを活用した効率化で持続可能な救急医療の構築を目指す

事業内容：Quick AI レポート

119番通報聴取支援AIで通信司令員を支援し、通報内容から軽症患者のトリアージも実現。さらに、119番通報から搬送・病院受入までを一気通貫で捉え、救急フローを“全体最適”で設計・改善。自治体・消防・病院と連携し、現場実装を推進可能



特筆すべき強み：メンバー紹介



武田 淳宏

CEO 代表取締役社長
筑波大学医学群医学類・公共イノベーション研究室
救急医療の逼迫と現場の疲弊を目の当たりにし、起業。
病院・救急隊・自治体など多様なステークホルダーを巻き込み、データとプロダクト・運用設計で課題解決の社会実装を進める。



田村 悠馬

CSO
スタートアップでの事業開発および自身の起業経験を経て、現在は上場企業の経営メンバーとして事業責任者を務める。スタートアップ支援や投資活動に従事しながら、東京都を中心としたプログラムの責任者も複数歴任。今回の事業においても統括・マネジメントを担う。



岡崎 亮太郎

CTO, AI Engineer
筑波大学医学群医学類・産総研 人工知能研究センター
複数のIT企業にて機械学習システムの設計・実装およびPMを担当。現在、株式会社セックにて内視鏡AIのアルゴリズム開発を担当。人工知能学会(JSAI)や国際会議(EUS・WCET)で筆頭演者として発表・受賞経験あり。



丸澤 賢司

COO
筑波大学医学群医学類・バイオインフォマティクス研究室
筑波大学理工学群物理学類を経て、筑波大学医学群医学類に編入学。重症度判定用AI研究開発や事業戦略の計画、策定を担当。



北島 匠悟

CIO 情報セキュリティ責任者
筑波大学理工学群物理学類を経て、システム開発会社に入社。医学系学会の基幹システム再構築の開発を担当。要件定義、基本・詳細設計、製造、各種テスト、データ移行、納品、保守まで全工程を横断的に経験。



井上 貴昭

アドバイザー
筑波大学附属病院 救急・集中治療部長 (教授)
高度救命救急センター長
県内の救急・集中治療ネットワークの構築・運営を担い、地域連携を業務で支えてきた経験を活かし、本プロジェクトでは専門家の視点からガバナンスと連携設計を監修。



大川 秋生

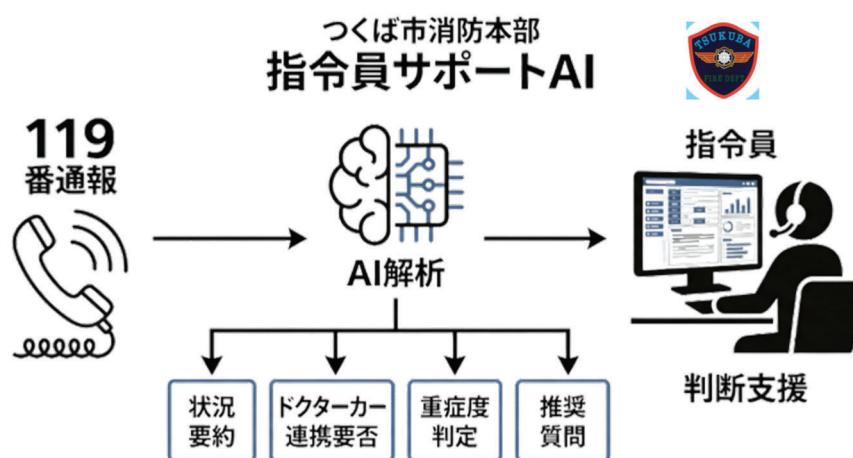
アドバイザー
アクセンチュア日本法人の拡大期を支え、2008年にアクセンチュアテクノロジー・リューションズ社長、のちに高島屋執行役員を歴任。
Quickではクライアントサービスの品質向上とデータ活用を基軸に、官民連携を含む協業を推進し、救急医療領域の社会実装を前進させる。

検証事例の紹介

検証事例：つくば市消防本部との指令員の“判断”を支えるAI活用検証

つくば市消防本部で「指令員サポートAI」を実証中

通報内容をリアルタイムに整理し、重要情報／確認質問／連携要否を提示して指令員を支援します。



筑波大学附属病院と共同研究：緊急度推定AIを共同検証

実際の救急搬送記録を活用し、緊急度判定AIを検証
救急車を本当に必要な人へ適切につなぐための実現可能性を評価します。



最後に

指令管制AI活用の共同実証実験

人口集中地域を管轄する消防本部と共同でAIによる緊急度判定および
119番通報の自動音声応答を検証するプロジェクトが進行中です。
2月上旬の報道発表を予定しています

問い合わせ/連携は以下のQRよりお願ひいたします。

- ・救急に課題をお持ちの自治体・消防・病院の方
- ・記者・メディアの方



進化し続ける医療インフラをつくる

